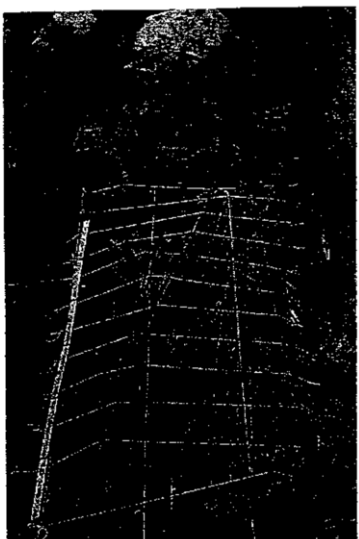


堂山古墳群

(その二)



堂山一号墳から出土した鉄製武器類

今日の墓には、たいていの場合、○○家之墓とか、○○之墓というように、その墓がだれの墓であるか記されています。ところが、古墳にはそのような記録はありません。皆さんがよく知っている仁徳天皇陵(堺市)や応神天皇陵(藤井寺市)なども実際のところだ

今日、それが埋葬されているのかわかっていません。古墳の埋葬者を決定するのは、大変難しい問題で先ごろ話題になった奈良の藤ノ木古墳でも、埋葬者についてたくさん説がありまして、古墳の埋葬者を決定することはできませんが古墳の造られた時期や副葬品

の種類などによって、ある程度推定することはできます。

堂山一号墳が造られた五世紀ごろは、考古学では古墳時代中期という時代にあたり、先に紹介した仁徳天皇陵や応神天皇陵などの大古墳が造られたのが特徴です。

この時代、日本(当時)は倭と呼ばれていた)は朝鮮半島との交流が盛んでした。当時、朝鮮半島には高句麗、新羅、百濟などの国がありました。日本は百濟と仲がよく、高句麗、新羅と争っていました。このような交流があったため、この時代には、朝鮮半島から渡来人と呼ばれる人々が出て来て、いろいろな文化、技術を日本に伝えていました。

(次号につづく)

堂山古墳群

(その三)



ハイキングのシーズンには、多くの人が訪れる堂山古墳



その後、同じ丘陵上に二号から八号墳が造られますが、その中でも、朝鮮半島でよくみられる石室(死者の棺を収める場所)があることから、朝鮮に關係のある人々が埋葬されたのではないのでしょうか。あるいは、朝鮮半島から渡来した人々そのものであったかもしれません。

堂山古墳群は、現在のところ市内で見ることのできる唯一の古墳です。これを機会に、皆さんもぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか。

堂山一号墳が造られた五世紀ごろ、朝鮮半島との交流によって、須恵器というそれまで日本になかった焼き物を作る技術が伝えられました。堂山一号墳から出土している須恵器は、須恵器の技術が伝わって間もないころのもので、朝鮮半島で出土しているものとよく似ています。

このような時代背景と、副葬品の須恵器、それからたくさん鉄製の武器類などと考え合わせると、堂山一号墳の埋葬者は、日本の朝鮮半島交流に深く関係しており、そこで何らかの功績があった武人という人物が浮かびあがってきます。